NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用して話す力・書く力を育てる

2．学校名

広島県大竹市立大竹中学校

3．実践者名（代表者名）

谷野多枝子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

短学活・国語　　129人

6．単元（本時の学習課題）名

①「時事スピーチ」、②「主張を書こう」

7．目標（狙い）

①（スピーチ）時事問題に関心を持ち、自分で選び考えた内容を、聞き手に正しく伝える力をつける。
②（意見文）収集した材料を有効に使って、説得力のある文章を書く力をつける。

8．評価の視点

①（スピーチ）記事のあらましや自分の感想・考えを話して、正しく伝えることができたか。
②（意見文）記事を利用して、説得力のある文章を書くことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①（スピーチ）週1回短学活で行う。
②（意見文）「主張を書こう」（6時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①（時事スピーチ）帰りの短学活で毎週3名ずつがスピーチをする。内容は「記事名」「選んだ理由」「記事のあらまし」「感じたこと・考えたこと」の4点。
＜留意点＞聞いている生徒は質問を返すなどして、発表者に応える。4クラスで足並みを揃え、発表後はスピーチ原稿を学年廊下に掲示するなどして、継続する工夫をする。

②（意見文）教科書によって、主張を述べる文章の書き方を学ぶ。（1時間）
自分の決めたテーマに関連する材料を集め、構成を考える。（3時間）
文章を書き、推敲をする。(2時間)
＜留意点＞記事を探すに当たって、新聞紙面や記事の種類、掲載ページなどの知識を持たせる。対立した見方や継続した記事も集めるよう意識させる。文章を書き始める前にペアの生徒に話して、論に矛盾がなく説得力があるか確かめる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①（スピーチ）発表の順番に当たると緊張したようだが、よい経験になった。聞く生徒も楽しみにした。
②（意見文）主体的な活動を通して、記事を見つけて組み立て、文章に仕上げたことで、達成感・成就感が得られた。

12．成果と課題

（成果）日頃新聞を手に取ることが少ない生徒も、身近に新聞があり、短学活と授業で利用することにより、時事的な事に関心が広がった。また、自分で読んだ記事を元に、話したり書いたりすることで、表現力が身に付いた。（課題）スピーチは1年生の時から度々機会を作り、多人数の前で話すことに慣れておくのがよかった。意見文は、募集作文の課題が7月になるまでわからないので仕方がなかったのだが、その単元に入ってから記事を探すのではなく、早めにテーマを決めて、常に意識し、新聞がくる2ヶ月間を目一杯使って、材料を集めることが必要である。